

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【公開番号】特開2006-300085(P2006-300085A)

【公開日】平成18年11月2日(2006.11.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-043

【出願番号】特願2005-118079(P2005-118079)

【国際特許分類】

F 1 6 D 3/26 (2006.01)

B 6 2 D 1/20 (2006.01)

F 1 6 D 1/08 (2006.01)

【F I】

F 1 6 D 3/26 X

B 6 2 D 1/20

F 1 6 D 1/08

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月26日(2008.3.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 7】

そして、図 4 に示す様に、上記ステアリングシャフト 2 3 の先端部を上記両抑え板部 2 9 a、2 9 b 同士の間挿入した状態で、上記通孔 3 2 を挿通した上記抑えボルト 2 5 の雄ねじ部 3 5 を上記ナット 2 6 に螺合している。更に、この抑えボルト 2 5 の緊締に基づいて上記両抑え板部 2 9 a、2 9 b 同士の間隔を縮める事により、これら両抑え板部 2 9 a、2 9 b の抑え面 3 1、3 1 を上記両外側平面 2 7、2 7 に押し付け、これら各面 3 1、2 7 同士の摩擦係合により、上記ステアリングシャフト 2 3 と上記ヨーク 2 4 とを結合固定している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 1】

尚、図示の例では、上記抑えボルト 2 5 と上記ナット 2 6 とを緊締する以前の状態で、前記両抑え面 3 1、3 1 と前記両外側平面 2 7、2 7 との間に存在する隙間の厚さを、これら各面 3 1、2 7 の幅方向（図 4 ～ 5 の上下方向）に関してほぼ一定（上記両抑え面 3 1、3 1 と上記両外側平面 2 7、2 7 とを互いに平行）としている。これに対して、上記緊締する以前の状態で、上記両抑え面 3 1、3 1 同士の間隔を、上記基端部 2 8 の開口部に向う程（図 4 ～ 5 の上方向）広くなる様に、前記両抑え板部 2 9 a、2 9 b 同士を僅かに傾斜させても良い。このような構成を採用すれば、上記抑えボルト 2 5 と上記ナット 2 6 との緊締に伴って、上記両抑え面 3 1、3 1 と上記両外側平面 2 7、2 7 との当接圧を向上させると共に当接圧を均一にして、上記ステアリングシャフト 2 3 と上記ヨーク 2 4 との結合強度の向上を図れる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 5 0 】

- 1 自在継手
- 2、3 ヨーク
- 4 十字軸
- 5 軸受カップ
- 6、7 シャフト
- 8 基端部
- 9 a、9 b 抑え板部
- 10 抑え面
- 11 ナット
- 12 ねじ孔
- 13 通孔
- 14 外側平面
- 15 凹部
- 16 アウターシャフト
- 17 インナーシャフト
- 18 スプライン係合部
- 19 中間シャフト
- 20 自在継手
- 21 自在継手
- 22 ステアリングシャフト
- 23 ステアリングシャフト
- 24、24 a ヨーク
- 25 抑えボルト
- 26 ナット
- 27 外側平面
- 28、28 a 基端部
- 29 a、29 b 抑え板部
- 30 連結部
- 31 抑え面
- 32 通孔
- 33 杆部
- 34 頭部
- 35 雄ねじ部
- 36 鐳部
- 37 取付孔
- 38 カバー
- 39 主部
- 40 内向鐳部
- 41 a、41 b、41 c 外向鐳部
- 42 脚片
- 43 凹孔
- 44 圧縮コイルばね
- 45 透孔
- 46 直線縁
- 47 平坦面
- 48 係合段差面

- 4 9 傾斜面
- 5 0、5 0 a 第一の凹部
- 5 1、5 1 a 第二の凹部
- 5 2、5 2 a 連続凹部
- 5 3 カム部
- 5 4 平坦面
- 5 5 雌ねじ
- 5 6 雄ねじ
- 5 7 かしめ部
- 5 8 a、5 8 b シャフト
- 5 9 シャフト
- 6 0 シャフト